

- イ、研修していく中で、上司や同僚から正しく認められたい。
- ウ、研修は、きめられた時間内でやればよい。
- エ、研修は、いつもねばり強く続けていこうという気持ち強い。
- オ、研修するよりも、自分の体のために外に出て運動する方がよい。

項目 (性別)	エ、ねばり強く……	イ、正しく認められ	ア、みんなと向上した	ウ、時間内でやれば	オ、運動する方……
男	6	0	9	1	1
女	8	0	11	1	0
計	14	0	20	2	1

[考察]

研修への欲求と取り組み方についてみると、意欲と結びつかないと言われる「ア、みんなといっしょに向上したい」が、20名おり、しかも第1順位としているのが多い。これは、共同研修の名のもとに他に依存する傾向がでているものと思える。

② 研究組織について

調査1. 本校の研究組織についてどう思いますか。

今のままでよい。(29%)	だいたいよい。(51%)	改善必要。(20%)
---------------	--------------	------------

調査2. 本年度の研究組織について、次の項目のうち該当するものに○を付けてください。

意欲的に参加できる組織	<input type="checkbox"/>	19 (9%)
役割分担内容が明確で研究しやすい。	<input type="checkbox"/>	38
組織体制が研修を深めやすい。	<input type="checkbox"/>	24
全体として、適材、適所	<input type="checkbox"/>	24

[考察]

調査1の研究組織については「今ままでよい」が29%、「改善必要」が20%であり、この結果から研究組織について再考する必要がある。また、調査2で示されているように「組織体制が研究を深めやすい」の支持が、24%であること

からも、組織を検討する必要がある。

③ 個人研修について

調査1. 今、取り組んでいる研究テーマは、共同研究テーマだけですか。

校内の共同研究テーマのみ (67%)	他の研究テーマも含めて (24%)	その他
--------------------	-------------------	-----

調査2. 個人研修が思うようにできない原因をどう考えますか。

意欲が不十分 (10%)	放課後は、会議や残務でいっぱい (85%)	(5%)
--------------	-----------------------	------

↑
研究上の問題解決の手がかりがわからない。

調査3. 個人研究とブロック(学年)研究・全体研究との関連について

結びついて (18%)	まあまあ結びついている (57%)	結びついていない (25%)
-------------	-------------------	----------------

[考察]

共同研究テーマのみに取り組んでいる者が67%、他の研究テーマをかかえて研究に取り組んでいるが24%と、男子に多くみられる。調査2、3の結果との関連で考察すると、個人研究の重要性が十分わかりながら時間を見つけてことができず、共同研究のみに取り組まざるをえないのが現状のようである。また、個人の研修時間は、勤務時間内にほとんどとれず家に帰ってからと答えた教師が9割以上いたことはおどろきである。研修時間の確保が大切であることが分る。

④ 授業研究について

調査1. 授業研究者になった時、どのようにうけとめるか。

研究の機会喜ぶ(24%)	教職として当然、抵抗感ない(48%)	やむを得ず(15%)	その他(13%)
--------------	--------------------	------------	----------